



放射線科

当院放射線科の特徴

- 『放射線診断』、『IVR』、『放射線治療』の主要3部門をカバーする専門医
- 多くの高度医療機器
(CT装置、MR装置、PET/CTなどの核医学検査装置、放射線治療装置など)
- 県内の市中病院で医師と技師の数が最も多く、県内唯一の放射線科総合修練病院
- 研修医や学生への充実した教育体制

放射線診断部門

令和3年度は途中から放射線診断専門医が1名減員となりましたが、1名が専門医資格を取得したため、計5名の放射線診断専門医、1名の非常勤診断専門医で放射線診断の業務を行っています。診療放射線技師数25名も含め、放射線診断業務に従事するスタッフの人数は県内の市中病院で最多です。

CT、MRI、核医学検査の総件数は県内の市中病院で最も多く、今も増加傾向にあります。放射線診断部門にはCT装置3台(うち1台は救急外来)、MRI装置2台、PET/CT装置1台、ガンマカメラ1台を有しています。本年度にはMRI装置を1台更新することになっており、RI部門でもSPECT/CTが導入される予定です。

これらの最新機器を、救急、肝・消化器、呼吸器、循環器疾患、周産期医療などの様々な分野で各診療科と密に連絡をとりあって運用することで、当院に期待されている高度総合医療施設・各種疾患拠点病院・ドクターヘリ基地病院としての責務に貢献しております。離島医療圏、病診連携関連施設など院外からの直接の読影依頼にも、随時対応しております。

IVR部門(血管内治療部門) ＜インターベンショナルラジオロジー＞

3名のIVR医で、IVR(画像下治療・血管内治療)を行っております。IVRとは透視画像やCT画像を用いながら、血管など体内に細いカテーテルを挿入して治療を行う方法です。外科手術を行わずに治療を行うことができ、患者さんにとっては低侵襲で、迅速に治療を行うことができるのが、大きな特徴です。



肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)

ドクターヘリ基地病院である当院では、外傷性あるいは非外傷性出血の患者さんの搬送が多く、救命のために緊急カテーテル動脈塞栓術による止血が必要な症例も少なくありません。そのため、年中24時間体制で急患受け入れを行っています。

また、当院は肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)の件数が九州で最も多い病院の一つです。このほか、心臓血管外科と連携して大動脈瘤に対するステントグラフト治療、産婦人科と連携して子宮筋腫に対する動脈塞栓術などの治療も行っております。

放射線治療部門

がん治療には、大きく分けて「手術」「放射線治療」「化学療法」の三つの治療法があります。近年、著しく発展している領域がこの放射線治療です。放射線治療には下記のような特徴があります。

- 治癒率が向上し、体の形や機能も保てる
- 高齢者への負担が少ない
- 放射線治療で用いる装置や技術が進歩

患者さんの多くが放射線治療は怖いもので、被爆と似たような副作用が起きるのではないかと考えていますが、決してそうではありません。むしろ、放射線治療だけをおこなう場合は、もっとも負担が少ない治療であるといえます。

放射線治療で用いる装置の発展は目覚ましく、当院でも最先端の放射線治療装置を導入しており、この大村でも先端医療施設と同様の放射線治療を受けることができます。

放射線治療部門のスタッフですが、放射線治療専門医だけでなく、専門資格を持っている放射線技師や看護師とともに日常診療を行っています。



放射線治療部門スタッフ